

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 広島 報告書



2018年11月23日、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 広島（以下、全国キャラバン in 広島）がサテライトキャンパスひろしまで開催されました。内閣府・広島県・広島市の後援をいただき、会場には50人が集まって議論・意見交換などが行われました。

第一部では、村井副代表理事の主催挨拶に続き池田肇・広島県教育委員会乳幼児教育・教育支援部長からご挨拶をいただきました。その後、入学・新生活応援給付金の情報提供と田中聡子・県立広島大学保健福祉学部教授から、県内の現状と西本豪雨について報告がありました。田中教授は、災害時における避難所の対応などから「乳幼児のいる世帯の場合、避難所は乳幼児と一緒に避難するという視点が十分にあるか。高齢者や障害者と比べて子どもや子育て家庭のニーズは見えづらい。教訓を次の備えに活かすことが大切」と語りました。



続くディスカッションは田中教授に加え、奥野しのぶ・こどもステーション理事長、金本秀韓・とりで理事長、学習支援に携わっている榊原美晴さん（県立広島大学4年）が登壇し、コーディネーターは村井副代表理事が務めました。登壇者からは「子どもたちは話を聞いてほしいとっていて、聞いてもらえる存在や場が必要」、「県内に子どもの権利条例を制定している市町村がなく、もっと子どもたちが『ここにいてもいいんだ』と思える環境づくりが大切」、「災害時と同様に子どもや家族をケアする人にも余裕がなく、支援者へのケアをどうするか」など活発な議論が行われました。



休憩を挟み、第二部は参加団体のリレートークに続き、花城わかな、田中涼太・あすのば子どもサポーターが全体司会を務め、『いま集まった仲間と協力して子どもたちのためにこれからできること』をテーマに参加者による話し合いが行われました。「お互いの機関紙を送り合って情報共有をしています」、「条例策定など目標を決めてみんなとの動きをつくりたい」など具体的なアイデアが多く出されました。



参加者からは「たくさんの人たちがいろんな場所でごんばっていることがわかりました。子どもの貧困を考えることで、そこにつながる社会資源がもっともっと増え、子どもの権利保障が実現できたらいいな（50代・女性）」、「グループワークでは、さまざまな団体の活動を知ることができ、つながりのきっかけとなりました。貧困は、経済的な指標だけでは測れないと改めて思いました（20代・女性）」、「幅広い立場の方が参加されていて、たくさんのお見聞が聞けてよかったです。今日のような活動がもっと広く知られるようになってほしいと感じました（50代・女性）」、「いろんな団体の活動を知ることができてよかったです。災害による子どもの貧困の現状を知ることができた。広島県が始めた学校での朝食提供は、長続きする方向、例えばバナナだけヨーグルトだけでも実施できる学校を増やしてほしい。子どもの貧困対策として、どこで、どのような活動をしているかを広報してほしい（匿名）」、「私も子どもの貧困に関する活動に参加していて、活動を豊かにするヒントを得られればと思い参加させていただきました。みなさんの話を聞いていて、子どもの貧困の“見える化”がひとつのテーマだと思いました。活動する人が“見える化”を積極的に行わないと活動を広げていくことに課題ができてしまっていると思った（20代・女性）」どの感想をいただきました。

今回の全国キャラバン in 広島にお集りいただいた皆様、開催にあたり温かいご理解とご協力をいただいた皆様に心から御礼申し上げます。そして、引き続きよろしくお願ひいたします。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 広島】

日 時：2018年11月23日（金・祝） 13時～17時
 場 所：サテライトキャンパスひろしま
 主 催：公益財団法人あすのば
 後 援：内閣府、広島県、広島市
 助 成：公益財団法人キリン福祉財団
 参加者：50人

